

こんにちは 牛越です

【第154回】
豪雨災害に備える



大町市長 牛越徹

今年は、全国的に春から初夏にかけて季節の移り変わりが随分早かったものの、梅雨の到来はやや遅くなり、県内を含む関東甲信地方は先月8日、昨年よりも2日、平年より1日遅い梅雨入りが発表されました。

5月初旬の大雨で、市内では八坂・美麻地区を中心に、落石や土砂崩落が発生し、八坂野平地区では犀川の増水により、農業用揚水機場が被災し、現在、早期の復旧に向けて準備が進められています。これからも梅雨明けまでは局地的な集中豪雨が心配されます。

このように、頻発する豪雨災害などに備えるため、市では先月12日、B&G財団との間で災害時相互支援協定を締結し、財団からの手厚い助成をいただき、クレーン付きトラックや油圧ショベル、救助艇などの防災機材を配備するとともに、大新田町に機材の倉庫を兼ねる防災拠点を設置しました。これに併せて、重機などの操作訓練などの人材育成にも支援いただき、災害発生時の緊急対応や応急復旧など態勢強化を図ることとしました。

先月10日、解けゆく雪の名残を惜しむように、恒例の北アルプス雪形まつりが文化会館で開催されました。大ホールの雪形ステージでは、唱歌早春賦を作詞された吉丸一昌先生の生誕150周年を

記念して「早春賦の世界」と銘打ち、先生の業績を回想する舞台が上演されました。ステージでは市内で活躍する朗読サークルや合唱団、吹奏楽団などの多くの演奏家の皆さんにより、早春賦の世界が再現されました。また、公募により寄せられた1288点もの、春を題材にした小・中学生の絵画や詩、短歌や俳句の表彰式が執り行われ、席上、優れた作品が披露されました。

北アルプスに現れるさまざま雪形は、厳しい雪に閉ざされて冬を過ごす私たち大町市民にとって春の象徴であり、この名を冠して開かれる雪形まつりは、待ち焦がれた春の到来を喜び、故郷に愛着と誇りを感じていただく機会になっています。

さて、間もなく夏本番を迎え、大町の夏の風物詩、大町やまびこまつりが、8月5日、4年ぶりに開催されます。当日は、中央通り商店街が午後3時から9時まで歩行者天国となり、さまざまなお祭りパフォーマンスが繰り広げられます。また、夕刻6時30分からは、やまびこおどりで祭りが最高潮に達します。コロナが収束に向かい、会場での飲食が可能になる解放された空間で、多くの市民の皆様のご参加により、大いに盛り上がることを期待いたします。